

令和元年度 富士河口湖町総合教育会議 議事録

日 時：令和元年 11 月 29 日（金）13：25～14：35

会 場：役場 3 階 304 会議室

出席者：町長、副町長、渡辺政孝教育長、白鳥正彦委員、渡辺裕子委員

山田宏之委員、倉澤秀委員（教育委員会）

学校教育課 ー 清水課長、

生涯学習課 ー 中村課長

文化振興局 ー 山中局長

教育センター ー 小河原センター長

（事務局）

渡辺政策企画課長、堀内係長、広瀬、外川

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 協議

【教育長】

富士河口湖町教育大綱について、目標は8つあるがその中の「学校教育」について説明する。施策を毎年見直しており、少しずつ変えながら学校教育現場に反映している。

富士河口湖町学校教育関連施策について、町内の小学校では2020年度から実施しなければならない英語科を2年前倒しで、すでに昨年から先行実施している。テレビでも船津小が河口湖駅前、大石小が自然生活館で外国人と話す様子が報道された。

また、ICT機器の活用ということで電子黒板・タブレット・デジタル教科書等の設置を各校に進めており、これらと並行して教職員への研修も実施している。

学校間の合同授業や交流活動については、西浜小・豊茂小・大嵐小などの生徒数が少ない学校は合同での授業や校外学習などを行っている。集団で切磋琢磨することも大事である。富士河口湖町には町バスがあるので無料でできることも恵まれている。

就学相談については、保護者が自分の子供を、その子にとって最も望ましい就学先を選択できるように就学相談員が中心になって保護者と相談や協議を行っている。今年4月に教育支援連携協議会を設けすでに2回実施し、年度内にもう一度協議会を行う予定。

不登校や「行動の規範を明確に示し、尊ぶ子を育てる」「郷土を愛する心情を育てる」については後に詳しく説明する。

資料4ページの「学力向上のための施策関連イメージ」にある、町内児童生徒の学力向上のため手立てとして、これまでの支援員に加えて、教員OBや外部指導者を増やしすでに実施している。

【町長】

ここまでで質問はあるか。

無いようなので、引き続き教育長から現状と課題を。

【教育長】

町内の小中学校には、およそ2000人の生徒がおり9学年あるので各学年に230人前後の生徒がいることになる。ソフト面・ハード面でも富士河口湖町は恵まれている。町外から来た先生からもよく言われる。予算面も恵まれているが、それに慣れてしまいさらに高い要求もでてきている。各学校が公平になるよう進めている。このように恵まれている教育環境ではあるが、成果とともに負の部分もあるので課題として挙げさせてもらう。

4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力学習状況調査では、小学校6年生は実施した国語、算数とも県及び全国の平均正答率を上回る学校が8校中7校あり、その中の3校はさらに大きく上回っていた。中学校3年生は国語、数学については2校中2校とも県及び全国の平均正答率を大きく上回っていた。ただ、英語は1校平均をかなり下回っていたので課題を残した。児童生徒向け質問紙の結果をみると、「教科学習への関心」「生活習慣・学習習慣」「規範意識」「自尊感情」「自己有用感」など全ての項目において、県及び全国基準を上回る素晴らしい結果であった。

県が独自に実施している「学力把握調査」では、今年から中学校2年生のみが対象となった。国語と数学は2校とも県平均と同等かやや上回る結果であった。英語については2校とも平均を上回る好成績であった。

不登校児童生徒について、現在30日以上欠席が続くいわゆるA判定と呼ばれる不登校の子どもが小学校に3人いる。これまで当該学校と町の教育センターや教育委員会所属SSWと連携・協力する中で再登校に向けての取り組みを続けているが、現状は厳しい。

産休・育休・傷病等の教員の代替者については確保に苦慮している。全国的に教員の志望者が減っている中で、多くの学校で教務主任が学級担任に入るなど対応している。だが、わが町は、町費負担教員（町単）が短期で代わりに入り、代替職員を確保するまでの期間の対応をしている。

空調設備も恵まれており、今年度は、各学校とも快適に授業を受けられたと思う。9月はじめに完成、稼働した学校もあったが、残暑に対して効果的に使用できたと報告を受けている。

4月の新学期開始以降、8か月が経過するが、様々な困難な諸問題が発生する中で学校経営にあたっている。学校や教育委員会に寄せられる保護者の声も好意的なものがほとんどであるが、時に厳しい意見が寄せられることもある。

厳しい状況が存在する学校もあるが、管理職をはじめ教職員が一体となり、またPTA執行部（役員）・保護者との連携・協力を得る中で各学校とも日々の教育活動に真摯に取り組んでいる。

各校の校長は様々な課題が存在する中で学校経営にあたっている。特に教職員の多忙化改善が喫緊の課題になっている状況がある中で、校長には職員の勤務の状況、健康の状況を把握し、病気の職員を出さないように改善をお願いしている。多忙化の改善に本来は学力の向上を目的に雇われている町費負担教員や支援員の存在が大きく寄与している。

全体的には、すべての学校において非行・暴力・警察沙汰は無く児童生徒は落ち着いて

学習に取り組んでいる状況にある。

学校事故等の防止には折に触れ、最大限注意を払うよう、校長先生方を通じてお願いしている。また、教育委員会としては給食従事者研修会を8月に行っているが、昨年度の異物混入防止のための研修会に代わる研修会(調理員向けと栄養教職員向けにそれぞれ実施)を12月25日に予定している。山梨県スポーツ健康課から指導者を派遣していただく。さらに通学路安全対策についても都市整備課をはじめ関係機関と連携する中、児童生徒の安全をより確かなものにするため取り組みを進めている。

インクルーシブ教育の進展に伴い、個別の支援を要する児童生徒が急増し、町単独での支援員を19名いずれも小学校へ、さらにきめ細かな指導、学力向上のため町単教諭を小学校13名、中学校4名、教育センター1名の18名配置している。小学校13名の内3名は半日勤務者である。また、教育センターへ相談員2名を配置し不登校支援や教育相談にあたっているが、教員と支援員の確保にはかなりの労力を費やしている。

教科としての外国語の令和2年度の本格実施に向け、本教育委員会では平成30年度より、町単英語支援員を3名雇用し先行実施を始め2年目を迎えている。先行実施をする中で、小学校高学年の指導に当たる教員(担任)の授業力向上や子どもたちの英語の学習への興味や関心の深まりが見られるなど、着実に成果が上がってきている。

最後に、令和2年4月入学予定児童についてであるが、今の時点で270名中、13名が指定校変更届を提出しており、今後まだ増える見込みである。

【町長】

以上学校教育課より現状と課題について説明があったが質問や意見はいかがか。

【倉沢委員】

勝山小学校への入学者は増え、小立小学校への入学者は減っている。勝山小学校を見てみたがギリギリ教室に入っている状況。放ってはおけない問題なので、増築やプレハブなどで早めに対策をするべきでは。

【町長】

認識はしており、県知事が進める25人学級になる以前に現地への教室増築を考えている。敷地の問題だけうまくいけば後は予算のこののみ。

【教育長】

生徒数は3年先まで増え、その後は減少する見通し。西浜や大嵐地区から勝山保育所へ通う家庭も多いので、希望者が多い。生徒数は見通しができない部分がある。

【町長】

町が人口を維持するために、勝山が転入の中核になっている。早めの増築を既存校舎西側に、ピークを考え2クラス分する。

【山田委員】

ICT機器・プログラミング教育というが、物があっても何をやるかが重要。ノートの代わりにタブレットを使うだけではプログラミング教育ではない。

【教育長】

小学校のプログラミングは何かを作るのではなく、求め方を学ぶ。ベネッセ社と契約し

ており、教員に研修をしている。手段をそろえて目的を大事にということ。国からは急な話だったが、近隣市町村の中でも町は進んでいる方。

【学校教育課長】

1人1台という話だがまだ早い。先生が機器を使いきれない。また、全員が使うと回線がパンクしてしまうなどハード面でも整備が必要。中身は不明確だが令和6年までは国が補助金を出してくれる。

【白鳥委員】

教育委員としてよく相談されるのが、指定校外の学校へ行きたいという話。保護者は安易に考えている部分もあり、教育委員会とでは指定校外へ行くという温度差が違っていると感じる。安易に（基準を変えるなど）変えることがないようにして欲しい。また4月に、特に新入生の親に対して説明が必要。

もう1点、安全について学校へ伝えて欲しいのが、特に1年生の保護者に対して。一度親と一緒に通学路を歩いて危険を見つけて欲しい。宿題にしてみるのも良い。

【小河原センター長】

学校によってはすでに実施している。1年生は4校時で終わる日があるので、その日に合わせて実施している。また、入学説明会のときに保護者へ一度一緒に子どもと通学路を歩いて欲しいことを伝えている。

以上